

嘉手納離着陸 1日118回

三連協が目視調査

【中部】嘉手納町、北谷町、沖縄市で構成する嘉手納飛行場に関する三連協(三連協、会長・当山宏嘉手納町長)は17日、嘉手納基地を離着陸する航空機の飛行ルートなどについて16日に実施した目視調査の結果を公表した。三連

協による目視調査は2011年7月以来、2年9カ月ぶり7回目。調査は16日午前6時〜午後10時まで、道の駅かたな、ちやたんニライセンター、沖縄市のコリンザの3カ所で実施。同じ機を重複してカウントしないよう、3カ

所で連絡を取り合った。航空機の目視確認回数は、常駐機190回、AH-1W攻撃ヘリなどの外来機39回で、計229回。離着陸は離陸57回、着陸61回、計118回。着陸後すぐに離陸する「タッチアンドゴ」は67回、急旋回は5回、

急上昇は6回確認された。市街地上空を飛んだのは41回で、そのうち6回は居住地上空だった。騒音の最高値はF15戦闘機が離陸後に急上昇した午前11時54分に98・8デシベルを記録した。

当山嘉手納町長は「F15の急旋回や急上昇が騒音の要因になっている。調査結果をもとに具体的に改善を求めていきたい」と、今後の要請活動に生かしていく考えを示した。

屋良で騒音 103・7デシベル

13年度 嘉手納3地域調査

【嘉手納】嘉手納町は、2013年度に実施した嘉手納基地周辺3地域(嘉手納・兼久・屋良)の騒音調査(70デシベル以上)の結果を17日までにまとめた。滑走路に近い屋良地域で、3地域

では最高の103・7デシベルを記録した。年間の騒音発生回数は、兼久地域で前年比725回増の9985回を記録したが、屋良地域は前年比1万2722回減の2万583

2回、嘉手納地域は同6530回減の1万5389回と、両地域とも前年比で約3割減少した。騒音の最高値は嘉手納地域が100・6デシベル、兼久地域は100・7デシベルだった。町では昨年より、車両などの走行音を拾いにくく、

航空機騒音のみを高い精度で収集する測定器を導入しており、同器を使った初めての調査だった。詳細な調査結果は、早朝帯・深夜帯の時間別の分析などを加え、来週以降にあらためて発表される。